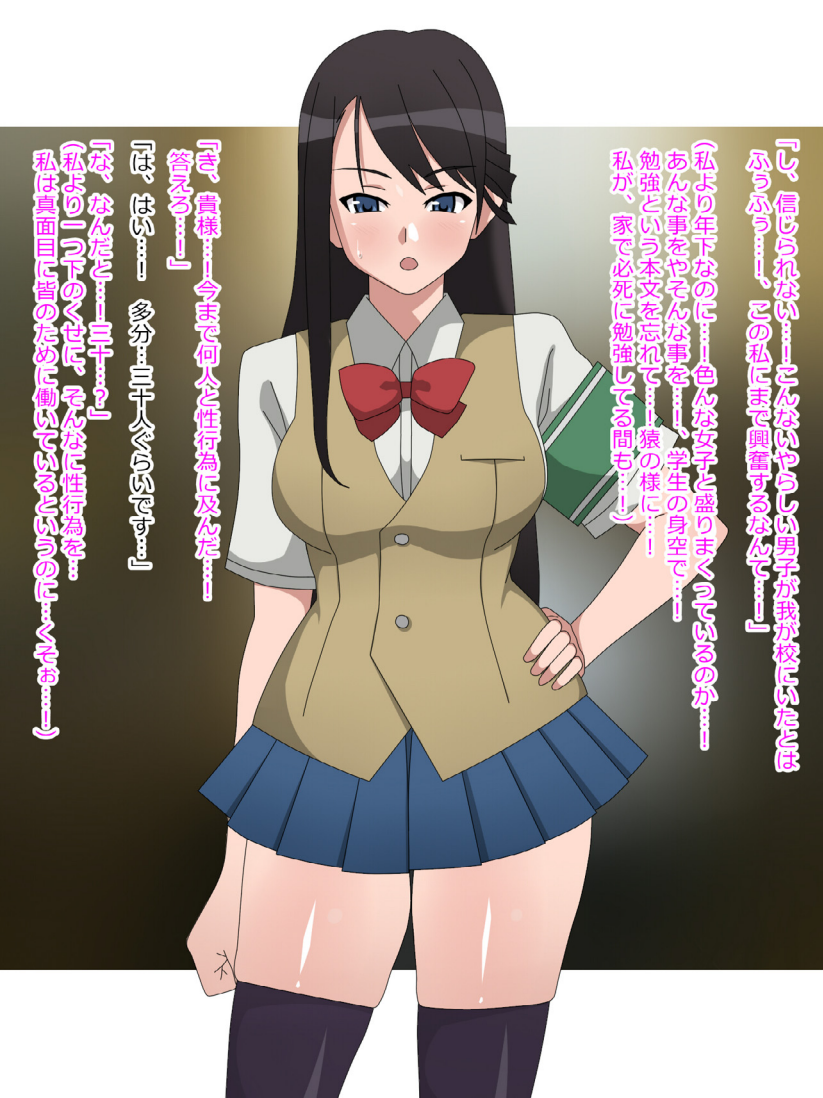
今まで好き放題してきたツケが来たらしく
生徒会室に呼び出されてしまった
確かに最近の僕はやんちゃすぎたかもしれない
「君が倉岡か…、想像していたイメージと違うな…」
「はぁ…」
「最近学校で風紀が乱れ始めている…
何でも男子から誘惑しているものがいるとか…!」
「そ、それは
困った男子ですねぇ…あはは」
「私はその男子が君だと睨んでいるが」
「あうぅ…」
(これは観念するしかないか…!?)
「生徒会長の情報網を舐めない事だな…」

彼女は風紀の鬼にして生徒会長
雨宮　理恵菜（りえな）
成績優秀、容姿端麗そして他人にも自分にも厳しく
先生からの信頼も厚いという絵に描いたような完璧人間である
僕はそんな人間に目を付けられてしまった
「君は援助交際もしているそうじゃないか！
まったく…、男性の身体を何だと思っている…！
減るものじゃないと考えているんだろうが
それは間違いだぞ…！
失った品性や貞操は買い戻せないんだ…！」
（うぅ…、晶や結ちゃんの事もあって
言葉が突き刺さる…これが良い機会なのかもしれない
しかし、それはそうとして…）

（良い太ももだなぁ…！前の世界じゃスカートが長目だったけど
この世界じゃミニスカにも寛容だからな…！
眼福、眼福…♥、鬼の生徒会長でも美人さんに変わりない
僕のリア充学園ライフは終わりを告げるんだ
おみ足を最後に焼き付けるぐらいしないと…！）
「ちょっと…！、聞いているのかしら…！」
（ぐへへぇ…ニーハイソックスも良いなぁ
肉が余って盛り上がって…）

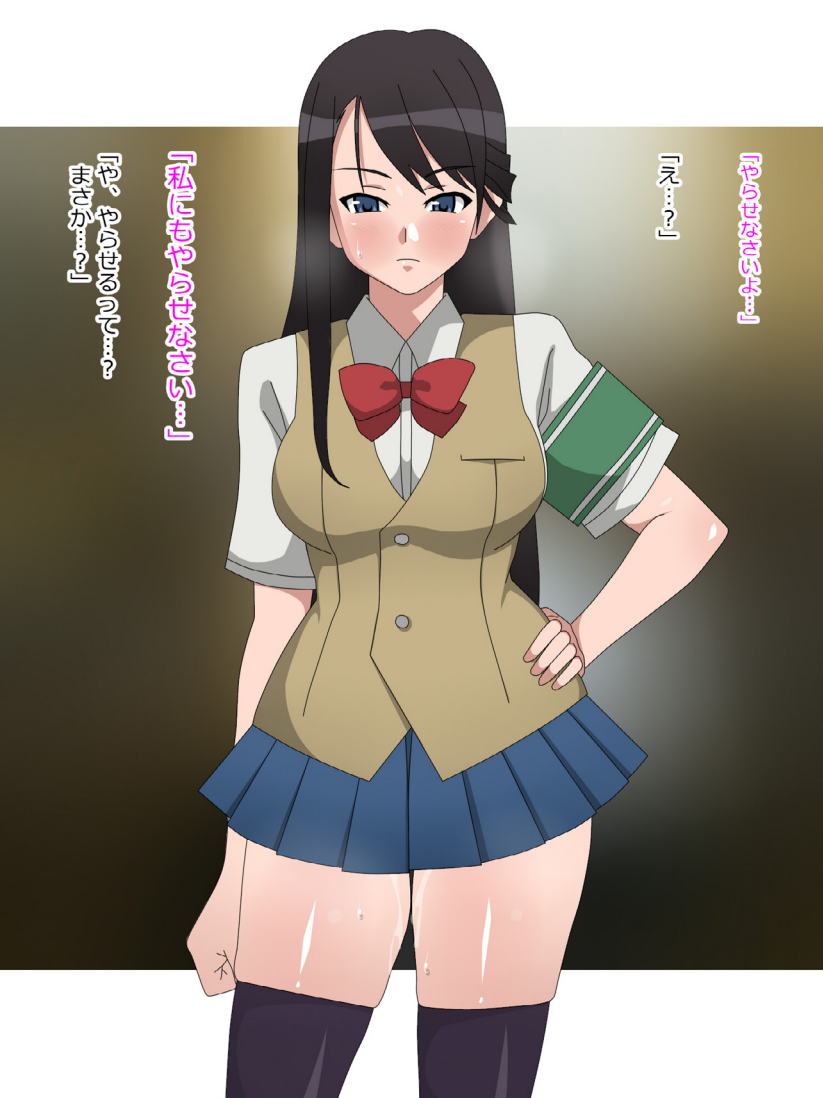
「ちゃんと話を聞きなさい、倉岡…！」
「は、はい…！」
（いかんまたのめり込んでた…！）
「君のためを思って私は言っているんだぞ…！」
「何より人の話を聞くときは
話している人の顔を見なさい…！
下を見てるなんて聞いていない証拠よ…！」
「ご、ごめんなさい…！
つい生徒会長の太ももが色っぽくて…」
「はあ…!?」

「倉岡…？、君はこの状況が分かってないようだな…!!」
「あわわ…」
（僕の馬鹿……!、なんで思ったことを言っちゃうんだ……!）
「私は生徒会長として君を正そうと貴重な時間を割き
君に説いていたのに…!
まさか…あろうことか…!」
「こ、この私の脚にまで欲情するとは…!
君はそれでも大和男子か…!?
下半身でしか物事を考えられないのか…!
ふうふう…!」
「ご、ごめんなさい…!」


「し、信じられない……！こんないやらしい男子が我が校にいたとは
ふうふう……、この私にまで興奮するなんて……！」
（私より年下なのに……！色んな女子と盛りまくっているのか……！
あんな事をやそんな事を……！、学生の身空で……！
勉強という本文を忘れて……！猿の様に……！
私が、家で必死に勉強してる間も……！）
「き、貴様……！今まで何人と性行為に及んだ……！
答えろ……！」
「は、はい……！　多分…三十人ぐらいです…」
「な、なんだと……！三十…？」
（私より一つ下のくせに、そんなに性行為を…
私は真面目に皆のために働いているというのに…くそぉ……！）

「ど、どんな事をさせている……！具体的に話せ……！」
「あの…この質問、何の意味が…？」
「つべこべ言うな、この糞ビッチがぁ……！」
「は、はいぃぃ！
フェ、フェラさせてあげたり…」
「フェラだと…!!
はぁはぁ…♥、フェラチオさせたのか……！」
「お、オッパイを吸ったり揉んだり…」
「いやらしい……！、汚らわしい……！
その口で何人もの乳房をしゃぶったのか…!?
は、恥を知れ……！、はぁはぁ…♥」

「そ、その他はクンニとか…パイズリとか…
普通にセックスしたり…」
「ちゃんとゴムはしてるんだろうなぁ…!?」
「た、大抵はしてます…」
「生でもしたことがあるのか……!
ぬぅ～……!」
《こちらは勉強の合間にオナニーするのが唯一の楽しみだというのに……!
これでは真面目な私が馬鹿みたいではないか…!
厳しい家でバイブさえ買えないんだぞ……!
だのに、こいつは……!男は良いだろうな、簡単に女が釣れるのだから～!》
「あ、あとアナルセックスも…」
「・・・」


「やらせなさいよ…」
「え…？」
「私にもやらせなさい…」
「や、やらせるって…？
まさか…？」

「せ、セックスさせなさいって言ってるのよ…!!」
「えぇ…!?」
「何よ…まさか私のおまんこ舐められないっていうの…!」
「そ、そういう訳じゃないですけど…あまりに話が急だから…」
「私にクンニするの…!?どうなの…!?答えによって停学かどうか決まるわよ…!!」
「喜んでペロペロします…!!」